

井仁の棚田

井仁の棚田は、江戸時代（1603 年-1868 年）初期の農業技術の名残が現在でも見られる一連の棚状の稲田です。この地域は海拔 450 メートルから 550 メートルの間に位置し、水田は周辺の険しい山々から流れ出た水流を引いて灌漑が行われています。水田を支える壁を保持している最も古い石は、戦国時代（1467 年-1568 年）にまで遡ります。風景は季節によって変化し、春には水で覆われた水田に空が反射し、夏には青々と成長する稲が緑色のパッチワークのようになり、稲刈りの季節の後の秋には黄金の色合いを楽しむことができます。

農家の数は減少したものの、1990 年代には、地元住民が力を合わせて井仁の棚田の保全に取り組みました。春と秋には特別イベントが開催され、ここを訪れる人たちは田植えや稲刈りに参加でき、外の人でも住民と交流し、その取り組みを支援することができます。これらのイベントは、地元の農家が田植え、稲刈り、稲の乾燥の伝統的手法を、このような知識のない若い人々に伝えられる機会も提供しています。